



目 次

研究情報	・ 新規研究課題「スターチス・オリジナル品種の低コスト種苗生産技術の開発」	・ (古屋 挙幸)	・ 1
研究の成果	・ 夏まき年内どり栽培における「紀の輝」の施肥方法	・ (福島 総子)	・ 2
	・ スイートピー育成系統の特性	・ (村上 豪完)	・ 3
	・ バラ切り花の輸送中の温度変化と花持ち	・ (紺谷 均)	・ 4
お知らせ	・ 平成18年度人事異動		・ 4



オリジナル品種の栽培・育苗風景と「フラスコ苗」

研究情報

新規研究課題「スターチス・オリジナル品種の低コスト種苗生産技術の開発」

本県のスターチス栽培では、種苗費が10aあたり100万円と高く、経営費の30%を占め、栽培農家の経営を圧迫しており、種苗の低コスト化が求められています。

これまでに暖地園芸センターや生産者によって、萎凋細菌病抵抗性品種など7つの優良なオリジナル品種が育成されました。これらの品種を活用すれば、種苗のпатент料を安くできるほか、「フラスコ苗」供給システムを構築することができます。

これは、培養業者が生産者に培養容器に入った苗（「フラスコ苗」）を供給し、生産者が

鉢上げを行って、クーラー施設で育苗するシステムです。

暖地園芸センターでは、本システムを確立するために、今年度からバイオセンター中津などと連携し、以下の試験研究（戦略的研究開発プラン）に取り組みます。

- ①開花遅延が発生しない培養条件の解明
- ②育苗しやすい「フラスコ苗」生産技術

オリジナル品種の「フラスコ苗」が普及することにより、種苗費の40%削減と農家経営の安定化が期待できます。

(育種部 古屋 挙幸)